

畦元議員の活動に期待そして行動こそが健康保持で社会貢献だ

神奈川県放射線友の会 会長 長谷川 武

昨年、11月28日(月)に畦元将吾衆議院議員(岸田内閣厚生労働大臣政務官)を長谷川会長・早瀬副会長・中村監事・橋監事の4人で表敬訪問しました。

12月の理事会で畦元衆議院議員を神奈川放友会が支援していくことを確認すると共に、「神奈川県放射線技師会に畦元議員の活動について知ってもらうことを検討すべき」として、神奈川放友会 Newsletterで関連情報を掲載し、紹介をすることとした。(第62号4・5・6・7ページに掲載してあります)

遅くなりましたが、新年を迎えて皆様のご健康とご多幸を祈りつつ、神奈川放友会の発展を祈願します。

昨年本会は、創立15周年を迎え希望に満ちた組織活動を期待し、理事会は飛躍に挑戦する幕開けの年にしたいと願っています。しかし、会員の高齢化と会員減による本会の活動を認識して、会運営のスリム化による見直しを提案する準備を進めております。

これには会員の反応こそが肝心であり、反映されることこそが組織の力となるので、会員からの忌憚のないご意見を期待している次第です。

寿命年齢が延びる中で、皆さんと共に高齢化社会を健康に生き抜く仲間づくりの夢を見ております。

会員はエネルギーの源であり、人が集まれば何か発想が湧いて来るはず、何もかもは出来なくても、何か手掛けられることがきっと出て来ると思うので、これまでの人生経験と発想から期待されます。

発想には夢を持ち合わせる気持ちを、神奈川放友会は持ち続けるべきと思っているので、納得のゆく仕事を見つければ人は集まって来るでしょう。皆さんで組織としての「仕事=活動」を模索し、仲間を増やすことが社会貢献のひとつだと理解したい。

人生100年時代の高齢化社会の中で、新型コロナウイルス禍が3年間も蔓延しているが、高齢者にはコロナだけでなくフレイルとロコモ予防も大変重要ですので、組織活動への参加で健康保持に役立ててほしいのです。自らの健康づくりが大きな社会貢献ですので、「神奈川放友会の存在」は社会貢献に繋がっていると確信しましょう。

組織の活性化が会員の健康に関与しており積極的に参加されると、会員の健康と共に組織は発展します。

その分析をしてみると

その一は、イベント開催に参加すると、自らの生活環境の潤いを取り入れていける。

その二は、機関誌への投稿で自ら仕事を作り、コミュニケーションを創っていける。

その三は、会の出版企画等に参加することで、自分の存在意義を認識し、社会貢献に参加できる。

その四は、会への参加は自分を励まし、精神的にも肉体的にも健康を保つ起爆剤になっている。

その五は、憩いの館や放談会への参加で、健康保持目標の支えになる。

等を上げることが出来るでしょう。

毎日がゴールデンウィークだと暇を持て余すだけではなく、自分が持っている専門知識や特技や時間などを、会を通して些細ながらも社会貢献に役立てて欲しい。

会の創立目的からも会員の行動が、組織団体としての活動に繋がっていることを理解して頂き、積極的に参加して頂きたい。会員が元気で健康であってこそ、神奈川放友会の存在意義があります。

ご承知の如く世の中は、地球温暖化対策やロシアのウクライナ侵攻により、俄かに自国の防衛、エネルギーと食糧の確保対策等が重要な緊急課題ですが、更にコロナ予防等を含めて、国は政策の大きな転換点を迎えて社会は大きく変化しています。また、診療放射線技師出身の厚生労働大臣政務官「畦元将吾」衆議院議員の支援活動などが、神奈川放友会の活動の一環に取り入れられているので、これらに立ち向かうために、定年後の輝くべきシニア時代をひとりで家に閉じこもっているのではなく、神奈川放友会で「人が集まれば仕事は生れて来る」ことを理解し、参加することで社会のひとりぼっちを解消して、かつ健康保持の一助に努めるべきです。

会員として「参加する、行動する」ことが刺激であり、自然体で健康への手助けとなることができ、社会貢献の一つになることを認識したい。